平成９年度

米沢市立上杉博物館年報

Vol. １０

Annual Report

1997

YONEZAWA CITY UESUGI MUSEUM

刊行にあたって

米沢市立上杉博物館では、館の管理運営をお願いしている(財)米沢上杉文化振興財団の御尽力により、平成9年度は3件の特別展を開催いたしました。

例年、「春の上杉まつり」にあわせ開催している春季特別展では、「文書のすがた」と題し、重要文化財「上杉家文書」の特徴とその修復状況を紹介しました。

この「上杉家文書」は、平成7年9月から2ヵ年をかけ、京都国立博物館文化財保存修理所において修復を行ったもので、この展示会では、当時の書状の特徴がよく表れているものや修復状況が顕著なものなどを選定し、展示いたしました。さらに、会期中、修復について御指導をいただいた方々を講師としてお迎えし、上杉家文書の魅力やその修復状況について御講演をいただきました。

夏には、平成元年に山谷氏から寄贈された昆虫コレクションを基に、「昆虫展」を開催いたしました。今回は、東南アジアのアゲハチョウ科に焦点を当て、半島や島ごとに変異する様子を、標本や地図等を用いながら解説・紹介をいたしました。

秋には、今回で27回を数える日本刀展を開催しました。「明治から現代までの名刀展」と題し、これまで毎年開催してきた時代別テーマの締めくくりとして、重要無形文化財保持者(人間国宝)をはじめとする名工の作品を鑑賞していただきました。

一方、本市の新しい博物館の建設に向け、基本計画を策定するとともに、平成13年の開館を目指し、その準備を着々と進めております。

今後とも、なお一層の御指導、御助言を賜りますようお願い申し上げます。

平成１１年３月

米沢市教育委員会

教育長　相　田　　實

目　次

○館の概要 …… 1
・目的と沿革
・施　　設
・博物館日誌 …… 2

○平成９年度事業
1．展　示
(1) 文書のすがた展 …… 6
－重要文化財上杉家文書の特徴とその修復－
(2) 第８回　昆虫展 …… 9
－南アジアのアゲハチョウ－
(3) 第27回　日本刀展 …… 11
－明治から現代までの名刀展－
(4) 館蔵品展 …… 13
－郷土作家　近・現代絵画のながれ－

2．資料管理事業 …… 15
(1) 上杉家文書資料集作成作業
(2) 館蔵資料整理・保存作業
(3) 資料台帳整備作業
(4) 図書資料分類・整理作業
(5) 資料調査作業

3．調査・研究　置賜の登拝習俗用具及び行屋 …… 16

4．収　集
(1) 平成９年度受入資料 …… 28
(2) 収蔵資料数 …… 29

5．博物館実習 …… 30

○平成９年度　入館利用状況
1．利用状況 …… 31
2．利用案内 …… 32

○組織・名簿
1．米沢市立上杉博物館協議会委員 …… 33
2．財団法人　米沢上杉文化振興財団 …… 34
3．米沢市立上杉博物館

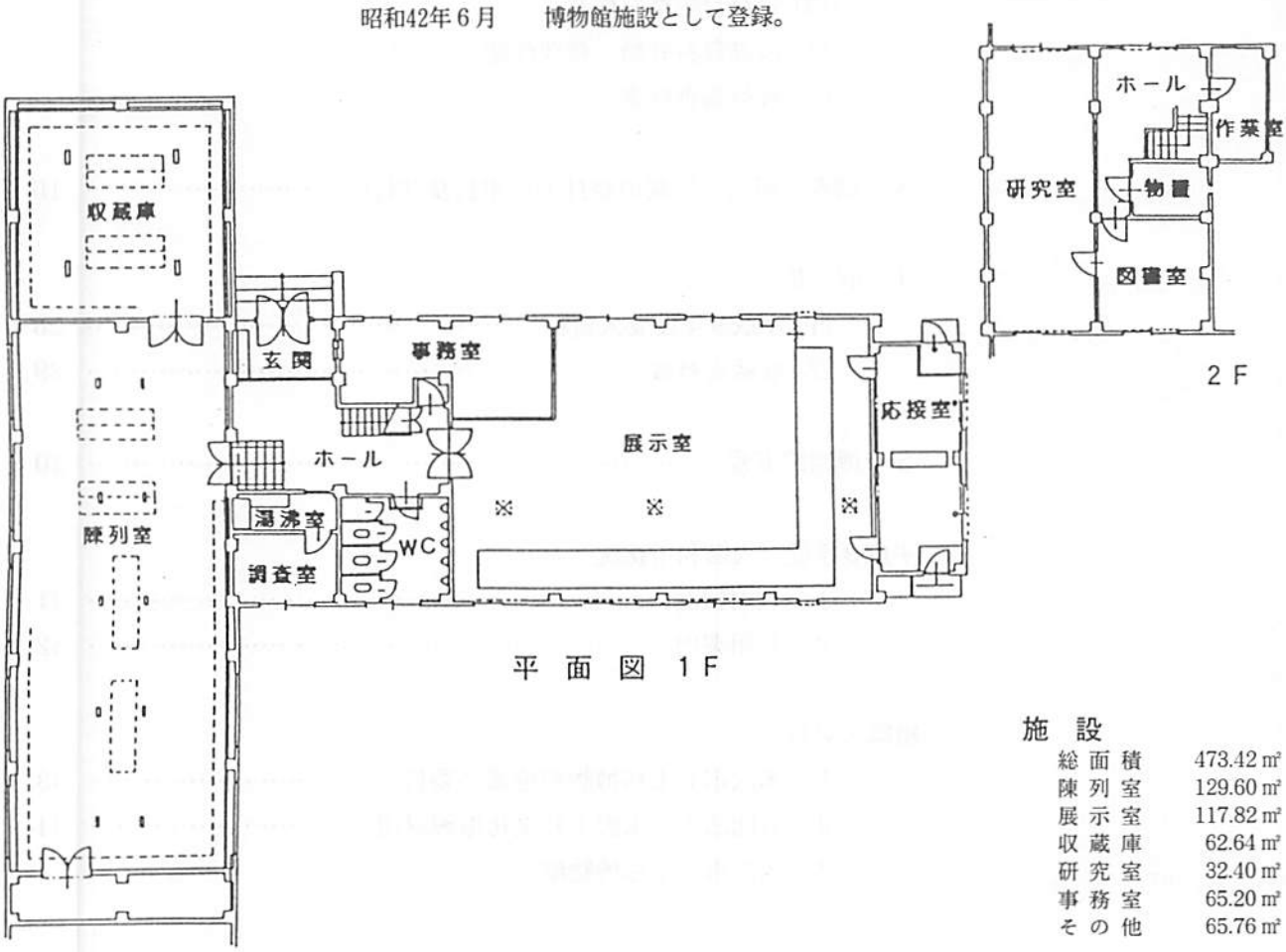
館の概要

目的と沿革

米沢市立上杉博物館は、その前身として米沢郷土館・米沢市立郷土博物館・市立米沢博物館があった。これらは南置賜郡役所や市立図書館に併設されていたが、昭和42年、市民の教養の向上と学芸および文化の発展を図るため、博物館施設として現在の位置に独立した館が建てられ、名称も米沢市立上杉博物館となって、そのあゆみを始めた。

当館では、価値ある資料を収集・保存し調査研究に基づく展示を行い、教育的配慮のもとに一般の利用に供すること、人々の教養・調査研究・レクリエーション等に資するために必要な事業を行うこと、資料に関する調査研究を行うことを目的としている。

昭和５年10月	元南置賜郡役所に米沢郷土館設置。
昭和13年４月	市政50周年記念として米沢市に移管され、市立図書館に併設。
昭和27年９月	博物館相当施設として登録、市立米沢郷土館と称す。
昭和30年９月	市立米沢図書館に移転（旧市立米沢図書館）。
昭和37年７月	博物館法による設置条例制定、市立米沢博物館と改称。
昭和41年11月	丸の内一丁目４番13号に、市立米沢博物館新館完成。
昭和42年４月	博物館法による設置条例制定、米沢市立上杉博物館と改称。
昭和42年６月	博物館施設として登録。



平面図 1F

施設

総面積	473.42㎡
陳列室	129.60㎡
展示室	117.82㎡
収蔵庫	62.64㎡
研究室	32.40㎡
事務室	65.20㎡
その他	65.76㎡

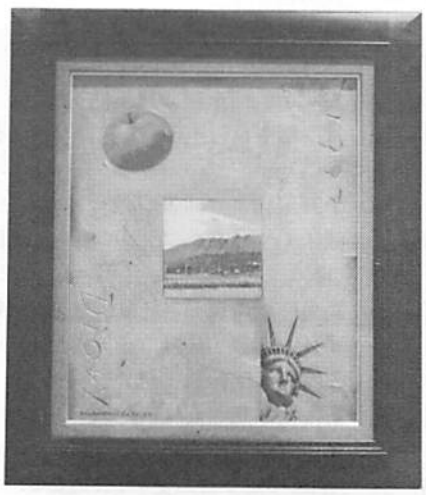
平成９年度　博物館日誌

H9. 4. 1　館内整理
4. 3　館内整理
館内清掃（ABM）
4. 4　国立歴史民俗博物館　湯浅隆氏来館
4. 8　徳永幾久氏来館（稿木綿標本調査）
米沢市と財団法人米沢上杉文化振興財団は米沢市立上杉博物館の管理運営について委託契約を結ぶ
長尾上杉氏印章搬入
館内清掃（ABM）
4. 9　蔵清掃
上杉家文書修復返却
文化庁　池田寿調査官来館
文化財保存修理所宇佐美直八氏、直秀氏、田中氏、鈴木氏、竹上氏、浅田氏、山内氏来館
4. 10　上杉家文書点検
上杉家文書検品撮影（TUY、NCV、米沢新聞社）
国立歴史民俗博物館　湯浅隆氏来館
東京国立博物館　村野隆男氏来館
4. 11　山形新聞社（伊藤、鈴木記者）取材
上杉家文書検品作業
4. 14　ABM 点検
4. 15　椿貞雄絵画（２月館蔵品展出品分）蔵Ａへ収納
文書台搬入
館外清掃（シルバー人材センター）
4. 16　佐藤防災点検
4. 17　読売新聞社取材
4. 18　TUY 取材
NHK ラジオ取材
読売ニュースカセット取材
4. 19　特別展「文書のすがた－重要文化財上杉家文書の特徴とその修復」オープン解説会（角屋）
各社取材（毎日新聞社・NHK・河北新報社・山形放送・NCV）
4. 22　蔵、水漏れのため点検（文化課　小林補佐・山本係長・嶋貫事務局長・遠藤）
4. 23　裏出入口鍵修理（コバリガラス）
展示ケース鍵３個交換　追加注文２個
4. 24　米沢日報取材
朝日新聞社取材トランヴェール編集部取材
4. 25　陳列室斜面ケース鍵交換（コバリガラス）
TUY 取材
山形放送局取材
米沢市長来館
4. 26　上杉家文書講演会・レセプション（東京第一ホテル米沢にて）講師　滋賀大学教授（前東京大学教授）桑山浩然氏、京都国立博物館学芸課長　湯山賢一氏、宇佐美直八氏来館
4. 29　上杉邦憲氏御夫妻、敏子氏来館
上杉虎雄氏来館
5. 1　博物館建設協議会（嶋貫事務局長・角屋・遠藤）
山形県文化振興課長　杉本達治氏他３名来館
5. 2　米沢女子短期大学　木本好信氏来館
同志社女子大学　朧谷壽氏来館
5. 6　渡辺守雄氏より預かった刀　村正１腰（認定書付）、脇差　無銘、脇差　備前国住吉光、脇差　了或（栫付）、笄（1）、小柄（2）を沖田良夫氏持ち帰る。
5. 10　特別展「文書のすがた」解説会
5. 13　館内清掃（ABM）
5. 14　館外草むしり（シルバー人材センター）
5. 16　マイクロリーダー納入
文化課よりマイクロフィルム24巻移管
宇佐美松鶴堂よりマイクロフィルム18巻納入
5. 17　特別展「文書のすがた」解説会
筑波大学　山本隆志氏、上越市　福原圭一氏来館
5. 22　米沢東高校宿泊研修（蔵王）講師（角屋）
5. 23　フレンドリープラザ竹田又右衛門氏来館
5. 24　特別展「文書のすがた」解説会
5. 27　新博物館展示部会（角屋・遠藤）
5. 29　山形県文化環境次長　伊藤氏来館
刀剣協会　田野辺道宏氏来館
米沢女子短期大学日本史学科の学生来館
川野希氏より「兼光」の刀１腰預かる
6. 7　特別展「文書のすがた」解説会
文化財修復学会（遠藤・高梨）（～6／8）
6. 11　文化庁伝統文化課へ出張（角屋）
6. 16　平田収入役・村岡氏・安部氏・教育長来館
6. 17　新米沢人セミナー講師（角屋）
6. 18　上杉家文書運搬
乃村工藝社、企画調整課来館
上杉虎雄氏へ古文書解読依頼（嶋貫事務局長・角屋）
6. 24　新米沢人セミナー講師（角屋）
6. 25　刀剣博物館と打合せ（石塚刀剣米沢支部長・嶋貫事務局長・角屋）
6. 26　新博物館展示部会（角屋・遠藤）
6. 27　全国博物館館長会議（嶋貫事務局長）
7. 2　新博物館展示部会（遠藤）
7. 4　NHK テレビ取材
7. 14　館外除草業務（シルバー人材センター）
山形新聞社取材

7.18　米沢新聞社取材
7.19　第8回昆虫展オープン
　　ニューメディア取材
7.20　故山谷文仁氏（山谷コレクション寄贈者）
　　家族来館
7.21　洛中洛外図屏風（写真複製版）貸出し、搬出（山形大学工学部ER流体、MR流体及びそれらの応用に関する国際学会－東京第一ホテル米沢）
7.24　NHK取材（田中記者）
　　福島県立博物館　高橋氏来館
　　新人物往来社　新田和子氏「とっておきユニーク美術館・文学館」取材
7.25　洛中洛外図屏風（写真版複製）返却
7.26　NHK取材（田中記者）
　　林泉寺1・2丁目育成部見学
7.27　保管庫シャッター壊れる
7.28　保管庫シャッター修理（三和シャッター）
7.29　国立歴史民俗博物館　湯浅隆氏来館
　　博物館基本計画懇談会
8. 2　行屋資料調査（角屋・遠藤・高橋）
8. 3　盛岡大学門屋光昭氏来館
8. 5　行屋資料調査（角屋・遠藤・高橋・嘉藤・佐藤（優））
　　屋根修理（吉田建設）
8. 6　行屋資料調査（角屋・遠藤・高橋・佐藤（道））
8. 7　行屋資料調査（角屋・遠藤・高橋・佐藤（道））
8. 8　行屋資料調査（嘉藤・高梨・高橋）
　　新博物館展示部会（角屋・遠藤）
　　資料調査のため山口祥二氏宅へ（嶋貫事務局長・角屋・遠藤）
8. 9　行屋資料調査（角屋・高橋・佐藤（道）・佐藤（優））
8.12　行屋資料調査（角屋・高橋・嘉藤・高梨・佐藤（道）・村岡）
8.13　行屋資料調査（角屋・高橋・佐藤（優））
8.14　行屋資料調査（角屋・高梨）
8.17　NEC佐藤氏写真撮影
8.19　行屋資料調査（角屋・生熊・嘉藤・佐藤（道）・村岡）
　　マイクロフィルム見積（山形虎屋商事）
8.20　行屋資料調査（角屋・遠藤・高橋・佐藤（道））
8.21　行屋資料調査（遠藤・生熊・高橋・嘉藤・佐藤（道）・高梨）
8.26　高崎市教育委員会6名来館
　　影山絵画修復研究所　影山賢次氏来館
　　資料調査のため沖田表具店へ（嶋貫事務局長・角屋・遠藤）
8.27　新博物館展示部会（角屋・遠藤）
8.28　仙台市博物館館長　浜田直嗣氏来館
8.29　国立歴史民俗博物館　湯浅隆氏来館
9. 3　行屋資料調査（角屋・高橋・佐藤（道））
　　新博物館展示部会（角屋・遠藤）
9. 4　行屋資料調査（角屋・遠藤・高橋・嘉藤・高梨）
9. 5　行屋資料調査（角屋・遠藤・高橋・嘉藤・佐藤（優））
　　上越教育大学　川村知行氏来館
9. 7　昆虫展最終日
9. 9　博物館実習（長沢・橋本・須貝・石黒）（～9／11）
　　文化庁　大島暁雄主任調査官来館
　　館内清掃（ABM）
9.10　行屋資料調査（大島氏・角屋・高橋）
9.11　行屋資料調査（大島氏・角屋・高橋）
9.12　博物館実習（太田・大木・大友・後藤）（～9／17）
　　資料調査依頼のため鈴木経雄氏来館
　　鳥居下の柵設置
9.16　行屋資料調査（高橋・嘉藤）
　　「県民のあゆみ」編集のため田宮印刷（長谷川・岩井氏）取材
9.17　新博物館展示部会（角屋・遠藤）
9.18　行屋資料調査協力（松井章氏）（～9／19）
　　博物館実習（佐藤・蓼沼・星・四ツ谷）（～9／20）
9.19　米沢市立松川小学校　中村恵子氏講演依頼のため来館
　　蔵にて上杉家御年譜マイクロ撮影（角屋・高梨）
　　行屋資料調査（高橋・高梨）
9.21　蔵にて上杉家御年譜マイクロ撮影（角屋・佐藤（道））
9.22　蔵にて上杉家御年譜マイクロ撮影（高梨・佐藤（優））
9.23　蔵にて上杉家御年譜マイクロ撮影（角屋・高梨）
9.24　日本刀展ポスター発送
　　行屋資料調査（角屋・高橋）
　　常設展撤去
9.25　NHK 田中氏取材打合せ・取材
9.26　川西フレンドリープラザにて行屋調査（角屋）
9.29　山形第二小学校　滝波氏他2名視察
9.30　館外除草業務（シルバー人材センター）
10. 2　刀剣借用のため東京出張（嶋貫事務局長・角屋）
　　米沢市購入の太刀（号　姫鶴一文字）搬入
10. 3　刀剣展示

田宮印刷「県民のあゆみ」取材
NHK取材
10. 4　第27回　日本刀展オープン（～11／16）
10. 7　福岡市美術館学芸員　渡邊雄二氏企画展打合せのため来館
10. 8　高畠町横山氏宅（山本係長・遠藤）
10. 9　文化庁　大島暁雄氏、筑波大学　佐野賢治氏来館
新博物館展示部会（遠藤）
10. 10　中央公論社
10. 11　特別開館（連休中間日のため）
上杉邦憲氏　長女立原氏一家来館
10. 13　NHK取材（田中記者）
山形県博物館協議会（酒田）
（嶋貫事務局長）（～10／14）
10. 14　NHK取材(洛中洛外図観覧者インタビュー)
米沢新聞社取材
館内清掃（ABM）
10. 15　防火設備点検（佐藤防災）
10. 16　NCV取材
読売新聞社　田中氏取材
10. 17　予算打合せ（嶋貫事務局長・角屋・遠藤・生熊）
10. 18　窓口アルバイト　高橋・監視　菅野
栃木県大田原市野崎地区公民館講座来館
NHK中尾庸蔵山形放送局長、田中記者来館
10. 22　NTT写真借用
10. 24　NHK取材
キャプテン山形㈱　唐沢氏来館
10. 25　長井市西根地区公民館講座講師（角屋）
蔵にてマイクロフィルム撮影（高梨）
10. 26　蔵にてマイクロフィルム撮影（角屋）
10. 27　行屋調査のため休日出勤
10. 28　行屋資料コピーのため文化課へ（角屋・高橋・高梨・佐藤（優））
10. 29　NHK屋敷ディレクター来館
愛知県豊橋市議会員来館
10. 31　青木理事長行屋視察（嶋貫事務局長・角屋・高橋）
小野榮氏より図書寄贈（角屋）
11. 1　蔵にてマイクロフィルム撮影（高梨・佐藤（優））
11. 6　高畠町横山氏宅寄託品受取作業（嶋貫事務局長・遠藤・佐藤（道）・嘉藤）
入館料・図録代納付
11. 7　新博物館懇談会
文化課へ予算提出
11. 8　NHK「堂々日本史」PR版撮影
11. 11　館内清掃（ABM）
11. 12　宮崎県立図書館委託　後藤宰・甲斐亮典氏来館
11. 17　刀剣撤去
刀剣博物館　檜山正則氏・石塚・長岡・福田各氏来館
行屋資料　県・市分文化課へ提出
NHK堂々日本史撮影
11. 18　刀剣返却のため出張（角屋・遠藤・高橋・佐藤（優））
11. 19　資料調査のため茨城・古河市へ出張（角屋・遠藤）
行屋資料調査に関する現地記者説明会（角屋・高橋・佐藤（優））
11. 21　取材対応のため行屋へ（遠藤・高橋）
11. 27　ワックスがけ（ABM）
11. 28　山本係長展示ケースガラス破損具合視察
12. 2　ガラス修理（コバリガラス）
12. 3　NHKメディア21撮影
12. 4　新博物館展示部会（角屋・遠藤）
12. 5　入館料・図録代納付
12. 6　第5回　東北地区学芸員会議（角屋・高梨）
12. 8　TUY細井平洲関係資料撮影
12. 9　資料収集打合せ（角屋・遠藤）
館内清掃（ABM）
12. 10　上杉家文書巡回。小野諭、井形朝良氏蔵へ来館。
キャプテン山形来館
12. 11　上杉虎雄氏来館（図書寄贈）
12. 12　新博物館展示打合せ（角屋・遠藤）
12. 17　文化課佐藤年報作成のため来館
12. 18　文翔館　結城氏来館
上杉虎雄氏宅へ（角屋）
横山氏宅へ図書寄贈品受取り（遠藤）
西條天満神社より寄託の天神像3幅
写真撮影（市史編纂青木）
12. 22　NHK週刊たまご取材
ドラマ「上杉鷹山」PR放映
12. 25　新博物館展示部会（角屋・遠藤）
12. 26　御用納め・大掃除
1. 5　仕事始め
1. 6　佐藤設備来館（第二学芸室エアコン点検）
1. 7　尾花沢市　梅沢敏美、大高正史氏、講演依頼のため来館
1. 12　遠藤平右衛門観光協会会長来館
館蔵品展準備
1. 13　館内清掃（ABM）
館蔵品展準備
1. 14　館蔵品展準備
文化課佐藤来館
1. 16　収入役・会計課2名来館
酒井洋子氏よりビデオテープ1巻借用
1. 19　佐藤設備来館（第二学芸室エアコン修理）
文化課佐藤来館（年報用写真撮影）

1.21　ムサシ来館(リーダープリンター保守点検)
1.22　米沢女子短期大学へ（角屋）
1.25　館蔵品展オープン（～3／1）
1.27　米澤新聞社取材
　　文化課佐藤年報作成のため来館
1.28　山形県立博物館　渡辺信氏資料調査のため来館
1.30　文化課佐藤年報作成のため来館
　　市史編纂図録代納入
2. 2　雪下し(太田建設)のため嶋貫事務局長出勤
2. 3　停電。東北電力来館
2. 4　文化課小林補佐へ停電の件報告。漏電調査希望の旨連絡（嶋貫事務局長）
　　五十嵐秀順氏より預かりの古文書20点を返却
　　文化課佐藤年報作成のため来館
　　㈱虎屋商事　握美氏来館
2. 5　寄贈図書受入れ作業（高畠町横山氏宅）（遠藤・佐藤（道）・嘉藤）
　　五十嵐秀順氏に軸1幅返却（角屋）
　　高森務氏資料寄贈のため来館
　　東北映音　大久保義彦氏来館
　　新人物往来社　山本氏写真貸出し
2. 9　漏電調査（東北電化工業)。文化課山本係長立会いのため来館
　　保管庫シャッター・陳列室入口・保管庫入口鍵穴修理（三和シャッター）
2.10　新博物館展示部会（遠藤）
2.13　新年度予算打合せ（嶋貫事務局長・角屋・遠藤・生熊）
　　漏電検査。文化課山本係長来館
2.14　姉妹都市関係者来館
　　読売新聞社　永野・岡田記者取材
2.17　YBC街の探訪－米沢なつかしの景観取材（角屋）
　　山家工郎氏、本間対馬守高秀レファレンスのため来館
2.19　兼光の刀（川野希氏所有）写真撮影。撮影者とともに来館
2.24　新博物館展示部会（角屋・遠藤）
　　電話回線増設
　　婦人会教養セミナー講師（角屋）
2.25　新博物館展示部会（角屋・遠藤）
2.26　NTT使用法説明
3. 3　館蔵品展撤去作業
3. 4　文化課予算打合せ（生熊）
3. 5　小林補佐予算打合せのため来館
　　昆虫友の会　永幡嘉之氏来館
3. 6　蔵へ文書運搬作業（角屋・遠藤・高橋・高梨・佐藤（優））
　　昆虫友の会　永幡嘉之氏来館
3. 9　掲載依頼の上杉家文書　写真撮影（メモリー舎）
　　コピー機点検（富士ゼロックス）
3.10　文化課佐藤年報校正のため来館
　　館内清掃（ABM）
　　掲載依頼の上杉家文書写真撮影（メモリー舎）
3.12　コピー機点検
　　関町黒田明雄氏　資料調査依頼のため来館
3.13　上杉家文書（一部）マイクロフィルム撮影（虎屋商事・渥美部長）
　　ダスキン小型浄水機設置（モニター期間4週間）
　　ワープロ一部修理（リコー）
3.16　昆虫室エアコン修理（日立）
3.17　文化課山本係長資料借用のため来館
　　新潟市郷土資料館　松田洋之氏来館・調査
3.18　富山大学名誉教授　楠瀬勝氏、富山大学富田正弘氏、氷見市市史編纂室　鈴木瑞磨・高木場延定氏資料調査のため来館（～3／19）
　　コバリガラス来館
3.20　新博物館展示部会（角屋・遠藤）
　　㈱学研来館
3.23　文化課打ち合わせ（嶋貫事務局長・遠藤・生熊）
　　文化課手塚主任斜面ケース視察
3.24　芸術工科大学　中野浩氏来館
3.30　館外清掃
　　平成9年度購入資料受入れ。収蔵庫に保管
3.31　山口大学　湯川洋司氏来館
　　遠藤宏三氏来館



新収蔵品「ダイアリー1997」10号
後藤克芳　画

平成９年度事業

１．展　　示

(1) 特別展「文書のすがた」
－重要文化財上杉家文書の特徴とその修復－

重要文化財上杉家文書の最大の特徴は、多くの文書が受け取った時のままで保存されていることである。この特徴を尊重した修復のあり方とその成果を紹介した。

米沢市では平成7・8年度の２ヶ年で、上記文書について文化庁の指導のもと京都国立博物館文化財保存修理所において修復を行った。解装、裏打ち除去、繕い、裏打ち等の個々の文書の状態によって修理を施すが、特別に指示のある物を除き、巻子、冊子、台紙貼、鋪、捲り等旧状のまま仕立てることを基本としている。

展覧会では、当時の書状のあり方が完全復元となったもの（本紙礼紙の重ね方、折り方、封のし方、包紙のあり方等上杉家文書の特徴を示したもの）、修復の顕著なもの30余点を選定し展示した。また、上杉家に伝来した旧箱（赤箪笥等）とこのたび保存管理を目的に製作された保存箱を可能な範囲で展示し、修復の全容が想起できるような展覧会とした。なお、会期が長いため連休明けにすべての展示替えを行った。会期中に、上杉家文書および修復について講演会を開催した。

会　　期：平成９年４月１９日（土）
～６月８日（日）

主　　催：米沢市立上杉博物館

主　　管：財団法人　米沢上杉文化振興財団

入館料：一　般　５００円（４００円）
学　生　３００円（２４０円）
小中生　１００円（　８０円）
※（　）内は20名以上の団体割引料金

関連印刷物：

ポスター	５００枚
チラシ	５，０００枚
目　録	６，０００枚
図　録	５００冊

特別展示：
国宝上杉本洛中洛外図
（原本）４月１９日（土）～５月５日（月）
（複製）５月１０日（土）～６月８日（日）

列品解説：
４月１９日、５月１日、１７日、２４日、６月７日
午後２時より　本館学芸員　角屋由美子

講演会

日　時：4月26日（土）午後1時より

会　場：東京第一ホテル米沢

「上杉家文書の魅力

－研究者にとって上杉家文書の持つ意味とは－」

滋賀大学教授・前東京大学教授　桑山　浩然　氏

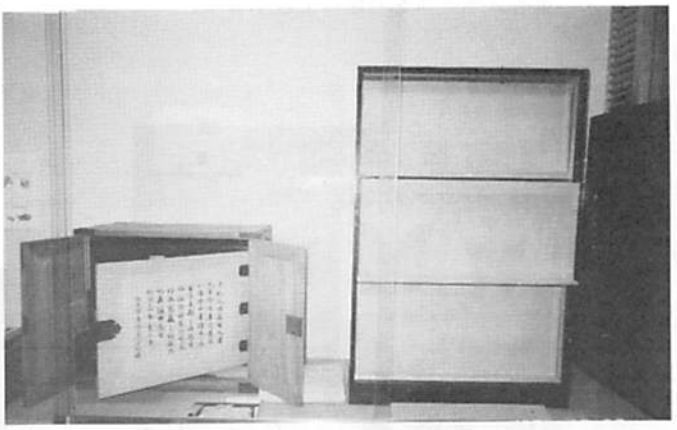
「上杉家文書の修復について」

京都国立博物館学芸課長　湯山　賢一　氏

展示資料目録

	前　　期	後　　期
越後国絵画	慶長二年越後国頚城郡絵図	寛保元年九月越後国全図
歴代年譜	上杉謙信	上杉鷹山
上杉氏系図	上杉氏系図（享保系図）	上杉氏系図（御系図）
歴代官物文書類	上杉綱憲	上杉重定
領地目録	上杉吉憲	上杉治広
赤箪笥（乾）	一、二、三	四、五、六
	両掛入文書	精撰古案両掛入文書
甲仕様文書	(永録4年6月10日) 政虎（上杉謙信）充近衛前嗣（前久）書状 精撰古案　第三抽斗	(建武5年) 5月27日　足利貞氏後室（上杉清子）消息 赤箪笥（乾）二之段　ヌ之段
乙仕様文書	(永録4年初) 関東幕注文 赤箪笥（乾）二之段　つ印袋	(永享12) 11月21日　室町将軍家（足利義教）御感御内書 赤箪笥（乾）二之段　り印袋
起請文	永録2年6月吉日　近衛前嗣（前久）血書起請文 精撰古案　第三抽斗	庚午（永録13）2月日　北条氏康・同氏政連署起請文 精撰古案　第四抽斗
捻封	(永録2年) 4月21日　室町将軍家（足利義輝）御内書 精撰古案　第二抽斗	(大永4年) 10月9日　長尾信濃守（為景）充斯波政着綸書状 赤箪笥（乾）一之段　ろ印袋
捻封展開	(永録2年) 6月29日　室町将軍家（足利義輝）御内書 精撰古案　第二抽斗	(大永4年) 10月9日　長尾信濃守（為景）充斯波政着綸書状 赤箪笥（乾）一之段　ろ印袋
切封	(天文9年) 9月27日　長尾信濃守（為景）充高橋宗頼書状 精撰古案　第三抽斗	(天文21年) 4月8日　長尾景虎充細川晴元書状 赤箪笥（乾）一之段　と印袋
切封展開	(天文9年) 9月27日　長尾弥六郎（晴景）充広橋兼秀書状 精撰古案　第三抽斗	(大永5年) 閏11月14日　長尾為景充細川道永（高国）書状 赤箪笥（乾）一之段　ろ印袋
折封	(大永7年) 6月10日　三条西聴雪（実隆）書状 赤箪笥（乾）一之段　は印袋	(享録2年) 8月3日長尾信濃守（為景）充伊勢貞忠 赤箪笥（乾）一之段　ろ印袋
	(天文9年) 9月27日　後奈良天王論旨 赤箪笥（乾）五之段　無印袋	(天正5年) 8月13日　不識院（上杉謙信）充足利義昭御内書 精撰古案　第二抽斗
折紙	(慶長3年) 正月10日　羽柴越後中納言充豊臣秀吉朱印状 赤箪笥（乾）三之段　ね印袋	(年月日未詳) 中納言（上杉景勝）充高台院消息 赤箪笥（乾）五之段　ホ印袋

堅切紙	（天正10年）山内殿（景勝）充（葦名）盛隆書状 赤箪笥（乾）五之段　ロ印袋	（永録13年）3月9日　山内殿（輝虎）充（北条）氏政書状 赤箪笥（乾）五之段　ロ印袋
のばし	（天文9年9月27日）後奈良天皇女房奉書 精撰古案　第三抽斗	（天正8年）卯月8日　専柳斎（山崎秀仙）充武田勝頼書状 赤箪笥（乾）四之段　き印袋
補修紙使用	元弘3年8月9日　後醍醐天皇論旨 赤箪笥（乾）四之段　江印袋	（天正19年）9月7日　羽柴越後宰相中将充豊臣秀吉朱印状 赤箪笥（乾）三之段　ね印袋
その他	（天文9年9月27日ヵ）右京大夫局消息 赤箪笥（乾）四之段　江印袋	（天文19年）9月7日　大かく寺充室町将軍家（足利義藤）女房消息 精撰古案　第二抽斗
上杉謙信	元亀3年6月15日　上杉謙信願文（鼎形朱印） 赤箪笥（乾）二之段　か印袋	永録4年3月11日　長尾景虎（上杉輝虎）印判状 精撰古案　第四抽斗
上杉景勝	天正10年3月20日　上杉景勝朱印状（飯縄明神朱円印） 赤箪笥（乾）二之段　れ印袋	天正13年5月8日　上杉景勝過所（森帰掌内朱円印） 精撰古案　第三抽斗
上杉鷹山	（年未詳）5月11日　上杉弾正充上杉治憲書状 赤箪笥（坤）第一抽斗	（年未詳）8月4日　上杉宮松充上杉治憲書状 赤箪笥（坤）第一抽斗
上杉治広	（年未詳）正月朔日　上杉宮松充上杉治広書状 赤箪笥（坤）第一抽斗	（文化7年）12月23日　上杉式部大輔充上杉治広書状 赤箪笥（坤）第一抽斗



展示風景

赤箪笥（乾）旧箱　　赤箪笥（乾）新箱 四、五、六段

(2) 特別展「第８回昆虫展」

山谷コレクションの柱の１つである東南アジアの蝶類の整理に着手したことに伴い、それらの分類展示が可能となったので、本年度はアゲハチョウ科について半島や島毎に変異する様子を標本と地図を用いて解説した。また恒例となった「世界と日本を代表する昆虫」の展示も行い、昆虫の多様性の理解に資した。

(1) 新たに整理の済んだ東南アジアのアゲハチョウ科を展示した。

(2) 世界と日本を代表する昆虫として厳選した20箱を展示した。

(3) 平成8年度までに分類・整理が完了した日本産昆虫をスペースを考慮の上展示した。

会　　期：平成９年７月１９日（土）
～９月７日（水）

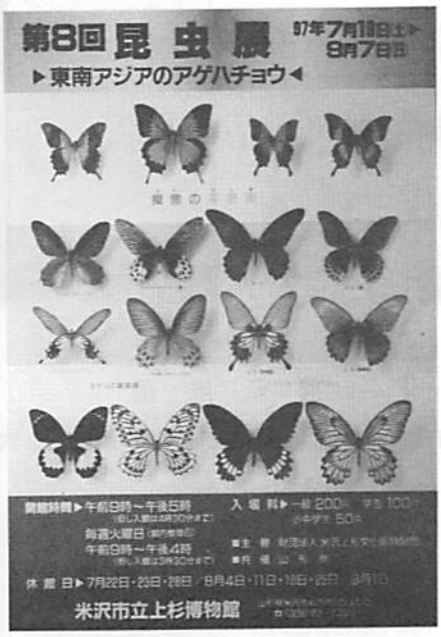
主　　催：米沢市立上杉博物館

主　　管：財団法人　米沢上杉文化振興財団

共　　催：山形県

入 館 料：一　般　２００円（１６０円）
学　生　１００円（　８０円）
小中生　　５０円（　４０円）
※（　）内は20名以上の団体割引料金

関連印刷物：
ポスター　　４００枚
目　　録　　７，０００枚



展　示　風　景

出品目録

ビクトリアアゲハ
（亜種エビファネス）
アカメガネトリバネアゲハ
（亜種ハルマヘラ）
プリアムストリバネアゲハ
（亜種アルーメガネ）
プリアムストリバネアゲハ
（亜種ニューギニア）
プリアムストリバネアゲハ
（亜種デュルフィール・アオメガネ）
チトヌストリバネアゲハ
（亜種プロミネンス）
パラジセアトリバネアゲハ
（ゴクラクトリバネアゲハ原名亜種）
ロスチャイルドトリバネアゲハ
ゴライアストリバネアゲハ
（亜種ラセム）
アカエリトリバネアゲハ
トロヤナアカエリトリバネアゲハ
ラマントゥスキシタアゲハ
マゲラヌスキシタアゲハ
（コウトウキシタアゲハ）
キシタアゲハ
アンフリススキシタアゲハ
ハリフロンキシタアゲハ
ヘレナキシタアゲハ
ヒポリトゥスキシタアゲハ
クネイフェラキシタアゲハ
（クサビモンキシタアゲハ）
ミランダキシタアゲハ
パプアキシタアゲハ
メムノンアゲハ
（ナガサキアゲハ）
ノックスアケボノアアゲハ
シコラックスアケボノアゲハ
（オオハゲタカアゲハ）
ホソバジャコウアゲハ
アケボノアゲハ
マエリアベニモンアゲハ
センペリィアケボノアゲハ
（セジロアケボノアゲハ）
ルマンゾビアアゲハ
（アカネアゲハ）
メスアカモンキアゲハ
ペラントゥスアゲハ
ペリクレスアゲハ
オオルリアゲハ
ヨルダニィアアゲハ
パプアアゲハ
ヘレヌスアゲハ
（モンキアゲハ）
ワタナベアゲハ
フォルベシィアゲハ
アケロンアゲハ
レテノールアゲハ
（スソビロアゲハ）
デモレウスアゲハ
（オナシアゲハ）
デモリオンアゲハ
（オビモンアゲハ）
ベンゲッタヌスアゲハ
ナミアゲハ（台湾産）
ダエダルスアゲハ
（フィリピンオビクジャクアゲハ）
パリヌルスアゲハ
ホッポアゲハ
パリスアゲハ
（オビクジャクアゲハ）
原名亜種
台湾南部亜種
ジャワ島西端亜種
マリアエベニモンアゲハ
フェゲウスベニモンアゲハ
コゼブェアベモンアゲハ
レイテエンシスベニモンアゲハ
ベニモンアゲハ
アルフェノールシロオビアゲハ
ポリテスアゲハ
（シロオビアゲハ）
レススタイマイ
（セレベスオオガタイマイ）
アリステウスタイマイ
ノミウスタイマイ
タイマイ
（アンティファテスタイマイ）
アゲテスタイマイ
（ヒメシロオオガタイマイ）
アサクラアゲハ
サルペドンタイマイ
（アオスジアゲハ）
日本亜種
台湾亜種
原名亜種
タイ産
マレー半島産
ジャワ島産
アガメムノンタイマイ
（コモンタイマイ）
ミロンタイマイ
クロアントゥスタイマイ
（タイワンタイマイ）
カギバアゲハ
ドソンタイマイ
（ヒカドアゲハ）
日本亜種
台湾亜種
フィリピン亜種
大陸亜種
スンダランド亜種
アウリィピルスタイマイ
セレベス島亜種
スンダランド亜種
フィリピン亜種
バティクレスタイマイ
エベモンタイマイ
マクファランタイマイ
イダエオイデスタイマイ
デレッセルティタイマイ
（ウスアオマダラタイマイ）
マカレウスタイマイ
メガルスタイマイ

(3) 特別展「第27回日本刀展」

ー明治から現代までの名刀展ー

第27回の本展は、「明治から現代までの名刀展」と題し、毎年開催してきた時代別テーマを締めくくった。実用として日本刀を必要としなくなった時代に、その技を甦らせた重要無形文化財保持者（人間国宝）をはじめとする名工たちの作品で構成した。

会　　期：平成9年10月4日（土）
　　～11月6日（日）

主　　催：米沢市立上杉博物館

主　　管：財団法人　米沢上杉文化振興財団

共　　催：財団法人　日本美術刀剣保存協会
　　米沢支部
　　山形県

同時展示：

(1) 重要文化財　太刀　姫鶴一文字（展示室）

(2) 国宝　上杉本洛中洛外図屏風（展示室）

　10月　4日（土）～10月19日（日）原本

　10月21日（火）～11月16日（日）複製

入館料：一　般　500円（400円）

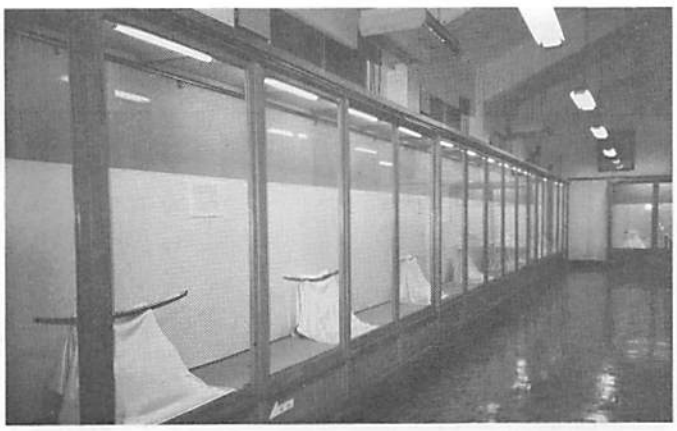
　　学　生　300円（240円）

　　小中生　100円（　80円）

　　※（　）内は20名以上の団体割引料金

関連印刷物：

ポスター	500枚
目　録	5，000枚
入場券	5，000枚
図　録	500部



展　示　風　景

展示資料

短　刀	銘	浪華月山貞一切物同作 明治二巳年仲夏	長さ九寸六分・反り極くわずか
刀	銘	浪華月山弥五郎貞一精鍛彫同作（刻印） 明治四未年季夏	長さ二尺五寸八分・反り五分
環頭大刀	銘	帝室技芸員菅原包則七十八歳 明治四十年十一月日 師霊二分一作謹鍛之	長さ一尺一寸四分半・内反り
短　刀	銘	帝室技芸員菅原包則八十八歳作 大正六年八月日	長さ六寸八分・内反り
太　刀	銘	大阪住月山貞勝謹作（花押） 皇紀二千六百年	長さ二尺二寸五分・反り七分
脇　差	銘	以日立新玉鋼宮入行平作 昭和五十二年正月	長さ一尺一寸二分・反り一分
剣	銘	大和国三輪山狭井河之上 太阿月山貞一作（花押） 昭和五十六年五月吉日	長さ八寸九分
小太刀	銘	太阿月山源貞一作（花押） 平成七年二月吉日	長さ一尺九寸九分半・反り六分
太　刀	銘	傘笠正峯作壬戌年八月吉日 為下野国上三川城主今泉高光菩堤末孫今泉澹贈之	長さ二尺四寸一分・反り九分半
太　刀	銘	天田昭次作之 平成五年皐月吉日	長さ二尺五寸・反り九分
太　刀	銘	俊平昭和五十五年十月二十二日 昭和五十三年度操業日刀保タタラ玉鋼試作刀	長さ二尺五寸七分半・反り九分
太　刀	銘	謹呈ハ鍬靖他武作 鈴木嘉定先生 昭和二十六年正月二十日 春日部工場竣工記念	長さ二尺六寸0半・反り八分半
太　刀	銘	雲州住忠善造之 昭和五十五年十月日 昭和五十三年度操業 日刀保たたら玉鋼試作刀	長さ二尺五寸一分・反り九分
刀	銘	小沢正壽作 以昭和五十三年度日刀保玉鋼 昭和五十五年十月日	長さ二尺三寸一分・反り八分
刀	銘	源　盛吉 昭和巳未年八月日	長さ二尺六寸七分・反り七分

(4) 館蔵品展

「郷土作家　近・現代絵画のながれ」

江戸幕府の御用絵師を長くつとめた狩野派の没落後、フェノロサらによる新しい日本画の創造やヨーロッパ画壇の動向に刺激を受け自我の表現に目覚めていった近代日本洋画の幕開け等、西洋の新旧の美術あるいは日本・中国の古典美術のエキスを吸収しながら成長してきた近現代の日本絵画のながれの中で、郷土出身の画家たちがいかなる影響を受けてきたのか、またそのながれの中でどのような位置に存在していたのか館蔵作品により紹介し、郷土の画家をあらためて見直す機会とした。

薮の中
我妻碧宇画

会　　期：平成１０年１月２５日（日）
～３月１日（日）

主　　催：米沢市立上杉博物館

主　　管：財団法人　米沢上杉文化振興財団

入館料：一　般　１００円（　８０円）
学　生　　６０円（　４５円）
小中生　　４０円（　３０円）
※（　）内は20名以上の団体割引料金

関連印刷物：
ポスター・チケット・目録等の外注はなし。
出展目録をワープロコピーにて対応

展示風景

出展目録

作品名	作者名	制作年	材質（技法・支持体）	法量（cm）
1．寂しき樹木	竹久夢二	大正期	絹本著色	112.6× 40.5
2．花鳥図	小野寒江	未詳	絹本著色	103.0× 42.5
3．富士山之図	窪島紫陽	未詳	絹本著色	37.6×117.8
4．上野夜桜	本間国生	未詳	紙本墨画淡彩	37.5× 45.0
5．皇居と夏雲（二重橋と夏雲）	本間国生	未詳	紙本墨画淡彩	45.0× 52.6
6．鎌倉大仏	本間国生	未詳	紙本墨画	38.0× 44.5
7．那智と華厳	本間国生	未詳	紙本墨画淡彩	65.5× 35.0
8．伊勢の海女	本間国生	未詳	紙本墨画淡彩	37.5× 45.0
9．鳴門	本間国生	未詳	紙本墨画淡彩	52.5× 58.5
10．鴨川友禅さらし	本間国生	未詳	紙本墨画淡彩	40.5× 45.0
11．高野の朝	本間国生	未詳	紙本墨画淡彩	46.0× 56.5
12．道後温泉	本間国生	未詳	紙本墨画淡彩	37.5× 41.0
13．朝霜	本間国生	未詳	紙本墨画淡彩	47.0× 57.0
14．函館トラピスト	本間国生	未詳	紙本墨画淡彩	37.5× 45.0
15．高砂族の舞	福王寺法林	昭和47年	紙本着色	182.0× 38.2
16．深山の残雪	本間国生	未詳	絹本著色	129.3× 41.7
17．藪の中	我妻碧宇	昭和45年4月	水彩・紙	61.0× 45.0
18．野糞讃（冬）	我妻碧宇	昭和45年4月	水彩・紙	60.0× 45.0
19．野糞讃（早春）	我妻碧宇	昭和45年4月	水彩・紙	60.0× 45.0
20．蒼茫50年	我妻碧宇	未詳	紙本墨画	43.0× 51.0
21．断崖	我妻碧宇	未詳	岩絵具・画布	41.0× 60.0
22．福米間鉄道工事の図	鈴木蘭涯	未詳	紙・銅版画	26.8× 18.9
夕陽観音	滑川聖二	未詳	岩絵具	91.0× 72.0
23．一軒家	土田文雄	未詳	油彩・画布	36.0× 44.5
24．夏の花	土田文雄	昭和34年	油彩・板	32.0× 23.0
25．オタカポッポのある風景	佐竹泰次郎	未詳	水彩・紙	68.0×102.5
26．斜平山の残雪	佐竹泰次郎	未詳	水彩・紙	78.0×107.5
27．妙義山	椿　貞雄	昭和20年	油彩・画布	60.6× 90.9
28．大浦天主堂	椿　貞雄	昭和32年	油彩・画布	90.9× 60.6
29．長崎港夕日	椿　貞雄	昭和31年	油彩・画布	53.0× 45.5
30．渓流（太平風景）	椿　貞雄	昭和15年	油彩・画布	90.0×115.0
31．静物	椿　貞雄	昭和27年	油彩・板	45.5× 53.0
32．彩子（びりけんまげ）	椿　貞雄	昭和27年	油彩・画布	45.5× 37.9
33．アンドレ（黄服）	椿　貞雄	昭和50年4月	油彩・画布	53.0× 39.4
35．風景	窪島政男	未詳	油彩・画布	63.5× 89.5
36．山形県五色沼吾妻連峰	窪島政男	未詳	油彩・画布	64.0× 90.0
37．カトレアのある温室	内山才吉	昭和47年	油彩・画和	61.0× 65.3

2．資料管理事業

(1) 上杉家文書資料集作成準備作業

重要文化財上杉家文書について、展示・管理に供する整備を行うため未解読部分の解読を平成7年度より行っているが、平成9年度は赤箪笥（坤）に収蔵されている近世文書522通のうち79通を米沢古文書研究会（会長上杉虎雄氏）に委託し解読した。

上杉家文書のうち歴代年譜についてマイクロフィルムの撮影を行い、謄写本を作成した。

(2) 資料台帳整備作業

平成7年度より継続している本作業は、昨年度までに収蔵庫内の全資料すべての資料について仮台帳との照合が完了しており、今年度は全資料（昆虫標本を除く）7,000点のうち、2,000点についての資料カード作成が完了した。

(3) 資料整理保存作業

収蔵庫の清掃、資料の包み直し、防虫剤の交換等の例年の作業に加えて、未整理資料300点、新規の寄託資料1,272点の受入分類・整理作業と館蔵絵図の修理を行った。

(4) 図書資料分類・整理作業

平成7年度に策定された「図書資料収集基本方針」、「米沢市立上杉博物館ミュージアムライブラリー図書資料整理マニュアル1995」に基づき、全蔵書9,000冊（平成10年3月31日現在）のうち8,500冊についての図書原簿記入・記述ユニットカード作成・ラベリングを完了した。3,000冊分の図書受入れデータの入力を完了した。

(5) 資料調査作業

新規受入れ資料について歴史的背景や資料価値についての調査を行った。

3．調査研究

置賜の登拝習俗用具及び行屋

上記は、米沢市立上杉博物館の管理運営を行っている財団法人上杉文化振興財団が、米沢市教育委員会から受託した事業で、財団法人農村文化研究所所有の行屋資料についての説明調査である。

本業務は博物館業務と並行して行われ、学芸員 角屋由美子、遠藤美穂が資料調査、総括にあたった。行屋資料は平成9年12月15日、「置賜の登拝習俗用具及び行屋」として、お籠り用具319点、登拝関係用具249点、行屋関係用具262点、合計830点、行屋3棟、附　登拝関係記録等14点が重要文化財として指定された。以下、本調査の概要を『置賜の登拝習俗用具及び行屋調査報告書』より抜粋して掲載する。

1．登拝習俗の概要

山形県南部に位置する置賜地方（米沢市／長井市／南陽市／高畠町／川西町／白鷹町／飯豊町／小国町）では一人前になる儀式として、また豊作を祈願して飯豊山、出羽三山に参拝する山岳信仰が盛んであった。その際、屋敷に引水した堀のほとりなどに建てられた奥行1間×間口1間半ほどの行屋と呼ばれる小屋で家族と離れて生活し、水垢離をとり精進潔斉する行を行った。お籠りは古くは1ヶ月にわたることもあったが、多くは21日間、時代が下がるにつれて1週間、さらに1日となった。行屋は1軒に1棟というわけではなく、本家分家の本家筋、集落、法印様、富裕な農家などに代表して建てられ、その年登拝する者が複数でお籠りをすることもあった。

本資料は、お行屋籠りの準備から、お行屋籠り－道中－登拝－帰着まで登拝習俗に関わる一連の資料を網羅するが、お行屋籠り時の衣類や帰着後の精進落しなど日常と異なる部分の資料の残在状況は極めて少ない。また、本資料は一般の行者の資料を中心としているため先達関係の資料についても同様である。お山詣りの習俗も信仰の場としての行屋のあり方も昭和初期で終わりを告げるが、江戸後期から昭和初期まで系統的に存在する本資料によって、置賜地方の山岳信仰における登拝習俗を把握することができる。

飯豊登拝（お西詣り）と出羽三山講（おしもまいり）のあり方、お行屋籠りから帰着までの登拝儀礼、置賜地方の山岳信仰と行屋の持つ意味等については、行屋資料の研究を担当した筑波大学助教授佐野賢治氏の論文を本調査報告書『置賜の登拝習俗用具及び行屋』に掲載しているので、そちらをご覧になっていただきたい。

2．分類別解説

本資料を、行人のお行屋籠りに関する用具と登拝儀礼に関する用具に大別し、さらに建物である行屋とその行屋に付随する用具をもって分類を構成する。

Ⅰ　お籠り関係用具

登拝は毎年お盆前の旧暦8月13日までにはすますものとされていたので、その前にお行屋でのお籠りがはじまる。お籠りが1か月あるいは3週間続いていた時代も、人々は山や田畑に出て働いていた。しかし肥出しや施肥など、意識的に不浄とされている作業は避けていたようである。

お籠り関係用具は、行者たちがお籠り中に着用していた「衣装類」、使用した「飲食器」「炊事・調理用具」、母屋からの「差し入れ用具」、拝み上げの際の神名を列記した書付など「修行用具」からなる。

Ⅰ－1　衣 装 類

お籠り中の衣類は日常着であるが、行をしていることがわかるように右肩から左脇下にシメ（注連）を下げていた。

日中は仕事も行うが、盆前の夏であるため暑さを防ぐ装束に特色があり軽装であった。ヒガサやガバニゾを手拭の上からかぶり日除けとした。「ニゾ」は独特のひさし型の日除け帽子で、材料がガバを用いていることからの名称である。

衣生活において、最も重要な役割を果たしたのが「シゴトシ（仕事し）」と称する働き着である。きれいなものは家で、屋外の労働には着古したものを着るなどの区別はあったものの、朝起きてから寝るまで、この衣服が常の生活着であった。一反二枚裁ちの裁断法でほとんどの人が着られるような、いわばフリーサイズ的な寸法であった。筒袖で腰をすっぽり包込む丈である。シゴトシの布は木綿の縞が主流であったが、男は紺の無地ものも用いられ、その上を細紐や縄などで結んだ。シゴトシの下衣としてはタチツケをはくのがごく普通の形ではあったが、お行屋籠りの時期は田の草取り作業などなされたため、泥の入りにくいモモヒキ（股引き）が用いられた。下着はエッチュウフンドシ（越中褌）だけである。

シゴトシの上にムネアテ（胸当て）をつけ、激しい労働に対応した。木綿の紺無地である。作業にはその他、腕に紺木綿のテサシ（手さし）を必ずつけ、手首は虫が入らないように紐で固く結んだ。足には後ろから前に脛を巻く布のキャハン（脚絆）をつけ、素足に草鞋をはくときは布製のコウガケ（甲がけ）によって緒ずれから足を保護した。テヌグイ（手拭）は、首にまき、頭にかぶり、腰に下げ重宝した。ヒデリゴモはヒヨケミノ（日除簑）ともよばれ、日差しから背中を保護した。

アシナカゾウリやゲタは、水垢離や便所などのため外に出るとき使用した。便所は母屋の、あるいは隣接した家の便所（外便所）を使用したが、お行屋籠りの時から便所用草履も新しくした。また、洗濯も自分たちでやった。

Ⅰ－2　飲 食 器

食事は朝、昼、晩の三回とも、ご飯、汁、おかずの一汁一菜であった。米は一回に一合と決まっており、魚・肉・ネギ・ニンニクなど生臭物はいっさい食べず、茶も飲まなかった。野菜・山菜・納豆・豆腐類を食した。

「キリミガキ」と呼ばれた食後の後始末に、修行というべき特徴がある。ご飯鍋の飯粒をきれいにとり、水を入れてヘラできれいに落とし、その水をメシワンに少しずつ分けて飲むことを7回繰り返す。さらに、汁鍋や飲食器も同様に洗い落として飲む。これも7回繰り返し、フキンでふきとり、これをしぼってその水も飲む。洗い落とした湯水は一滴もこぼさず飲み干したが、それが一回の食事で一升にもなったという。食べるものが質素なところ

に、この湯水を毎回飲むのであるから相当に苦しかったようだ。

きれいになった飲食器は、メシワン・シルワン・ワン・ハシを一人分としてフキンで包み、行屋の中の戸棚にしまった。キリミガキのため漆部分がはげ落ちて残存しているワンも多い。

飯豊山登拝の帰途、岳谷（たけや）という所に木地屋がいたので、そこでみやげに木椀や柄杓を買い求めた。メシワン・シルワン・ワン等木椀の大半はこの岳谷産と思われる。

Ⅰ－3　炊事・調理用具

炊事・調理用具はお籠り中の食事に関する生活用具一式である。佐野賢治氏は別項「山形県置賜地方の山岳信仰と御行屋」において“大人のままごと道具”と表現しているが、母屋での日常使用する炊事・調理用具の縮図である。使用後は行屋の戸棚に収納され、日常の用具と混在して使用されることはない。

ノリオトシベラは食事後「キリミガキ」の際、ご飯を炊いた鍋の飯粒をきれいにとり、湯水を入れて糊を落としたヘラである。カタクチは調理用の鉢であり、一方だけに注ぎ口がついていて、醤油の移し変えなどにも用いられた。

Ⅰ－4　差し入れ用具

お籠り中の食事は自分たちで作るが、基本的に行屋ですることはご飯（行屋言葉でオヤワラ）を炊くことであった。そのため母屋の方から差し入れもあった。ナベで汁を作り、ハチやサラには漬物や煮物などのおかずを入れマルボンにのせて、水垢離をとった老婆が運んでくれた。それについている新しい割箸で、自分が食べる分だけとった。自分の箸でとってはいけなかった。

行屋に差し入れるおかずは母屋で女の人が作ったが、日が悪い（生理時）ときは決して作らなかった。また作る場所も日常の台所の炉ではなく茶の間を用い区別していた。

Ⅰ－5　修行用具

ヒシャクは水垢離をとる際、水を体にかけるのに使用した。行屋生活で最も重要な行事は水垢離をとることで、お籠りの期間中に八万八千回とらなければならなかったと、いわれている。朝・昼・晩に各三回ずつ、さらに食前食後にも各三回ずつ、そのほか用足しに出る都度水垢離をとった。お籠り中に水垢離をとるほかに、唱えごとを覚えごとは毎朝毎夕お行屋の神棚にお灯明をあげ、膝まずき合掌して「アヤニ、アヤニ、クスシクタット、○○神社ノ（○○神ノ）ミマイニ、オロガミマツル」と全部の神様の名前を3回繰り返す。神様は、常世舟渡姫の神・稲倉御玉の神・湯殿の神・御親の神・月の御山の神・御沢の神・出羽の神・御滝の神・天照神などである。カキツケやユドノサンオガミアゲはこれらの神々の名を列記したものである。

お籠り中の修行のひとつに文字を覚えることがある。フデやスズリバコ、モジレンシュウガミはそのための用具であり、メウチはモジレンシュウガミなどを綴るのに用い、フミバコはカキツケなどを収納した。

Ⅱ　登拝関係用具

きびしい行屋生活が終わり、いよいよ登拝の日を迎える。お西詣りにおいては、登拝の前日に米沢盆地の西郊にある愛宕山、葉山などのオンマイノカミ（御前神）に参拝し、笹巻き団子に用いる笹の葉をとって帰った。笹巻き団子は登拝の当日、岩倉（西置賜郡飯豊町）に着くまでの弁当となった。

登拝関係用具は、行者たちが登拝に着用した「衣装類」と、携行用具を中心としてその他登拝に関する資料の「登拝用具」からなる。

II－1　登拝衣装類

オカンムリは行者の頭につけるもので、長さ六尺の白木綿の並巾物である。おしも詣りにおいては、これの中央を頭の裏の背骨の真上であわせ、これを前に廻し、額の中央の所で打ち返し、その端を左右に分け、左右とも耳の少し手前で折って、先に巻いた中に折り上げて、折り上げの部分を一にぎりくらい上に出す。お西詣りではもう少し複雑なようである。

下着はエッチュウフンドシで、その上に行者用の白木綿の股引きと袂のあるギョウイを着る。キャハンは脛をアシマキは足首を保護するものである。アシマキは白木綿二枚を縫いあわせており、ワラジをはくため足のくるぶしのあたりに巻く。

シメは麻糸や紙縒を細かく美しく組み上げたもので、行衣の上から首にかけた。輪を胸に組み上げた部分を背中にたらした。シメの多くは法印様からいただいたようで、法印様には組み上げの型があったという。シメによって組み方の緻密さに差異がみられるが、その差の意味するところは不明である。

スゲガサとキゴザは雨の用意として着用した。

オカンムリ・ギョウイ・フンドシ・カサ・キゴザの多くには、お山名・行者名・登拝年月日の記名があり、この記名の多さと読める状態で残っていることも本資料の特徴の一つである。

登拝中着ていたギョウイは、帰村の翌日「おわかながし」と称して、洗い、行屋にしまわれるが、このギョウイはその人が死んだときに着せてやると早く成仏するという。白いギョウイを着て登るお山は、死者の霊魂が籠る場所と同じ他界に通じるという。

II－2　登拝用具

概ね携行用具が中心となる。

ツエは自然木に行者名を記したものと、おしも詣りに使用された「羽黒山頂上」「月山本宮」「湯殿山仙人沢」等と焼印がおされた六角形か八角形の金剛杖からなる。

ズダブクロ（頭陀袋）は白木綿の布を三角形に縫った袋で、お洗米を入れて行く。オセンマイイレはこのお洗米を包んだ布で、30cm前後の四角形の布の一つ角に紐がついており、布の中心に置いたお洗米を四方より包み上げ、その紐でくくって用いる。

ワキサゲは脇下に下げたあけび蔓やいぐさで編んだ、巾八寸、長さ六寸位の四角で美しい籠に紐をつけたものである。これにはビッキセンを入れた白木綿のサイフやゼニイレ、ゼニブクロ、汗ふき用のテヌグイ、ドウチュウセンス、ちり紙などを入れた。ビッキセンはお西詣りの際、道中西置賜郡中津川の村々を通るとき、子どもたちに配る銭で、代わりに水垢離をとってもらうのである。

また、お札をうけるフクサやイイズツ、クスリイレなど道中の必要物を入れる柳や竹のコウリは、白いフロシキに包んで、キゴザの上に大黒背負いにした。イイズツはオセンマイイレとほぼ同形のもので飯を包んだ。

おしも詣りでは、お籠り中はきびしい行であったが、出立してから帰宅するまでは「まび（間日）」と称して、魚・肉食以外は、煙草や茶、どぶろくなども飲んだという。そのためタバコイレ・キセルが複数残っている。ホクチは煙草の火種うけである。

ジュズナワは縄を数珠に見立てて、3m前後の長さにいくつもの結び目を作り、お山に持参し念仏を唱える時に使用したものと思われる。

センダツフダイレは三山教会が出した登拝の証明書ともいえる札を納めた箱で、その札には小さい杉の葉が添えられる。

サイセンツツミは、幅10cm程の網状のもので長さ100cm～150cmの両端を結び輪にして用いたようである。しかし、これはお籠り中、シメとして用いたとの伝えもある。

Ⅲ　行屋関係用具

行に入る日の朝方、お行屋のまわりの草を刈り払い、ナガシ（用水）、また付近の堀にもうけてある水垢離場を掃除する。その後法印様や近隣の寺院から梵天を受け祈祷をしてもらう。この祈祷により、お行屋や火に魂が入るという。お行屋の正面奥の高い所に神棚を設け、そこに神礼をまつり、毎日ご飯をそなえた。

行屋関係用具は、行屋生活を成立させる基本的な用具である「家具・調度類」と神棚に関わる「神体・供献具」、「神札類」からなる。

Ⅲ－１　家具・調度類

ヒウチバコは行屋で用いる火をおこすときに使用する。

お籠りの期間中は、火は別火にするといい母屋で使っている火で煮炊きせずに、お行屋でおこした火を用いる。さらに、お行屋の火も向かって右側を中火（飯豊登拝、お西詣り）左側を上火（出羽三山登拝）と使い分けていた。ヒウチバコにも中火、御上火の記名があることから区別されていたことがわかる。中火、御上火の別のほか行者名、登拝年などよく墨書されている。本資料には、元文・天明・文化・天保・弘化・嘉永と江戸時代の年号が墨書されたものが9点あるが、享保5年と記されたヒウチバコが本資料中最も古い年号となっている。ヒウチバコの中には、火打金、火打石、それと仕切って炭が入って一式揃っている。それにツケギが残っている。マッチの普及後も行屋ではわざわざ火打石を使ったが、資料の中にはさすがにマッチも存在する。

ジザイカギは、炉の上にくるように下げナベなどをかけるが、滑車付きのしっかりしたものと簡便なものがある。

ヒョウソク、ショクダイ、ロウソクタテ等は燈火具であるが、油と蝋燭に使いわけがあったか、時代的なほ変遷か具体的には不明である。ガントウは夜に便所にいったり、水垢離をとる時に照らした。

お籠りの季節は夏であったため、蚊や虫に悩まされた。シチコは除虫菊のようなもので干して焚くと煙を発した。そのほかコウやカトリセンコウを焚いた。お籠り中は殺生が禁じられていたので、蚊帳や紙で作った簡単な頭をおおう虫除けもあったが、現存しない。蚊や虫を殺すのではなく、煙によって寄り付かないようにしたものと思われる。

テオノやマキワリダイは炉で使用するマキを準備するもので、カナヅチやカヤオサエは行屋の修理や屋根ふきに使用され、クサカリガマやコボウキは行に入る前の準備としての作業に用いられた。

Ⅲ－２　神体・供献具

ヘイソクとボンテンはお浄めにより聖域をつくるため、法印様や近隣の寺院から受けるものであるが、種類があり用いる場所によって紙の切り方も決まっていた。「炉の梵天」は炉の側に置き、「鉤の梵天」は自在鉤の上部にくくりつけた。「本尊の梵天」は神棚にあげられた。「屋（家）の梵天」はお籠りから帰着まで母屋の玄関の上の屋根に刺しておいた。本資料のボンテンは、天台宗派で江戸時代末期に羽黒派修験の触頭（ショクトウ、フレガシラ）をしていた六郷町桐原の法印様（常宝院）が切ったものである。現住職の胎田英林氏はヘイソクとボンテンの名称について、ヘイソクは神道、ボンテンは仏教における呼び名で同じものと定義づけられるが、地域の人々も区別なく呼んでいた。イチリンザシは本尊の梵天をたてるために代用したもので、梵天立である。

Ⅲ－３　神札類

キフダ・カミフダは、お山から受けてきたり、餞別返し（おみやげ）として登拝した人よりもらった。それぞれ母屋の神棚にあげて拝むが、暮の大掃除の時神棚より下し、行屋に納めた。

カミフダには、弘法大師の御影や大黒天の図を描いた湯殿山のお札など多種多様であるが、地域の人々は、形

状が小さく「御守護」と記しているものをマモリフダ、虫除け・虫退散、家内安全などの祈祷をしたものをキトウフダ、その他をオフダと呼び分けている。

行　屋

一般的行屋については幾度か述べてきたが、次に財団法人農村文化研究所が所有する三棟について具体的に記す。

(1) 行屋 I

奥行1間半×間口2間で一般的行屋より一回大きく立派な行屋である。昭和52年に川西町玉庭の朴沢より移築。(旧所有者　新野正) 明治20年代に造られ、飯豊山登拝に複数の行者で使用した。

萱屋根で寄棟のせがい造り。正面左端の3尺が引戸の扉（入口）となっている。右側面の左端にも3尺×3尺ほどの引戸があって、これは水垢離をとる時に使用した。かつてこの面が堀に面していたのである。背面に高さ61㎝、幅は全柱間81㎝の窓を有する。

内部の炉は一つであるが、石をくりぬいた大型の置炉。壁板には飯豊山登拝の水垢離の記録がある。

平成元年、米沢市は有形民俗文化財に指定している。

(2) 行屋 II

奥行1間×間口1間半、昭和50年、米沢市広幡町小山田より移築、(旧所有者　竹田吉翁) 切妻の行屋で、現在はトタン屋根であるがかつては萱屋根であった。竿ぶち天井。江戸末期か明治初期に造られたものと伝えられ、鍛冶屋釘を使用している。

置炉を二つ有し、向かって右側がチュウカ（中火）で飯豊山登拝のお籠り時に用いた。また左側をジョウカ（上火・浄火）といい、出羽三山登拝の折用いた。このように火にランクがあり、使い分けられた。

(3) 行屋 III

奥行1間×間口1間半。昭和47年に米沢市六郷町桐原より移築、(旧所有者　古山泰一) 萱屋根の入母屋造り。江戸時代後期に建てられ三棟中最も古い。

置炉を二つ有するのは前記と同様である。炉と炉の間に戸棚を置き、その中にひととおりの生活用具が入れられる。三棟の行屋いずれの屋根裏にも使用後の多くの梵天がさしてある。

附　登拝関係記録

お籠りに使用した購入品の覚書や請求書、登拝時の宿銭等道中の記録、同行者の人数書き上げなど、登拝関係の諸記録である。

置賜の登拝習俗用具及び行屋分類一覧点数表

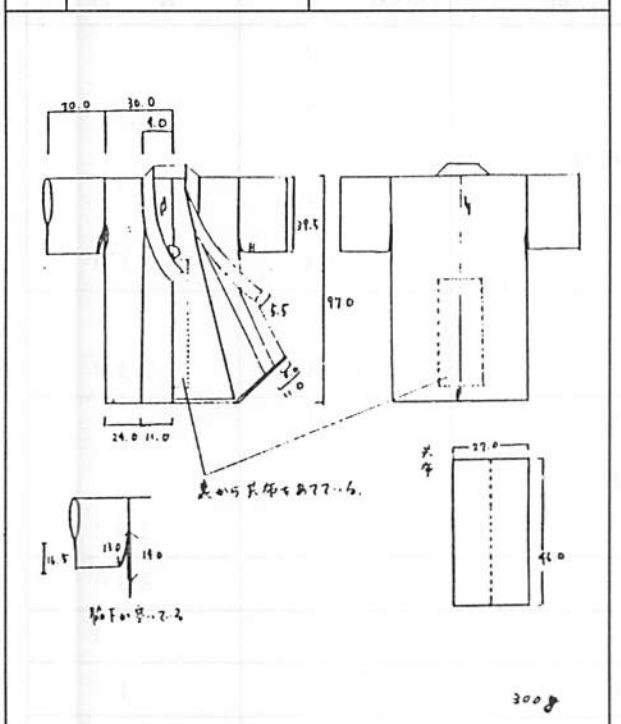
大分類		中分類	点数	合計
Ⅰ	お籠り関係用具	1 衣装類	60	
		2 飲食器	108	
		3 炊事・調理用具	93	
		4 差し入れ用具	25	
		5 修行用具	33	319
Ⅱ	登拝関係用具	1 登拝衣装類	135	
		2 登拝用具	114	249
Ⅲ	行屋関係用具	1 家具・調度類	94	
		2 神体・供献具	47	
		3 神札類	121	262
小計				830
行屋				3
附 登拝関係記録等				14
合計				847

置賜の登拝習俗用具及び行屋採集地域別点数表

大分類		中分類	米沢市				川西町	合計点数
			六郷	広幡	窪田	塩井		
Ⅰ	お籠もり関係用具	1 衣装類	44	3		9	4	60
		2 飲食器	23	28	29	22	6	108
		3 炊事・調理用具	57	23		10	3	93
		4 差し入れ用具	13	6		6		25
		5 修行用具	18	3		7	5	33
Ⅱ	登拝関係用具	1 登拝衣装類	111			15	9	135
		2 登拝用具	77	16		16	5	114
Ⅲ	行屋関係用具	1 家具・調度類	60	21		10	3	94
		2 神体・供献具	29	10		7	1	47
		3 神札類	87	10	1	23		121
小計			519	120	30	125	36	830
Ⅳ	行屋		1	1			1	3
Ⅴ	附 登拝関係記録等		10		2	2		14
合計			530	121	32	127	37	847

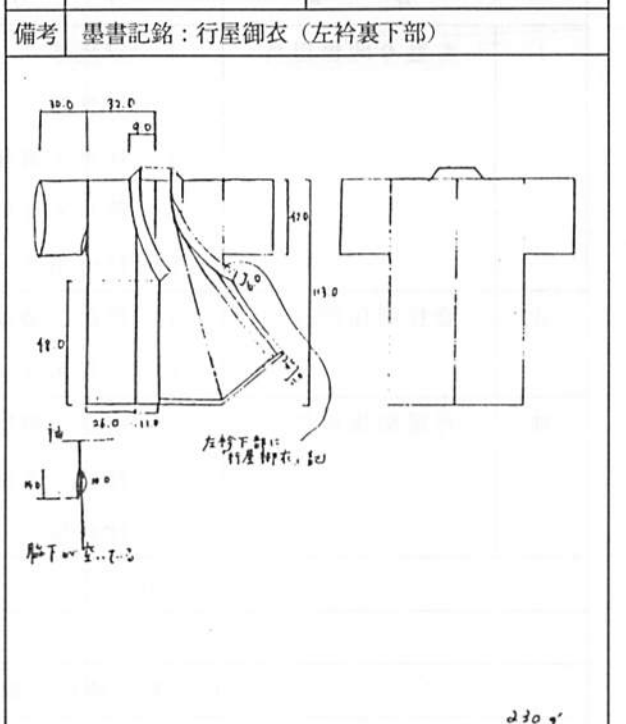
「置賜の登拝習俗用具及び行屋調査報告書」記載例

46	ギョウイ	上、木綿製、丈970㎜



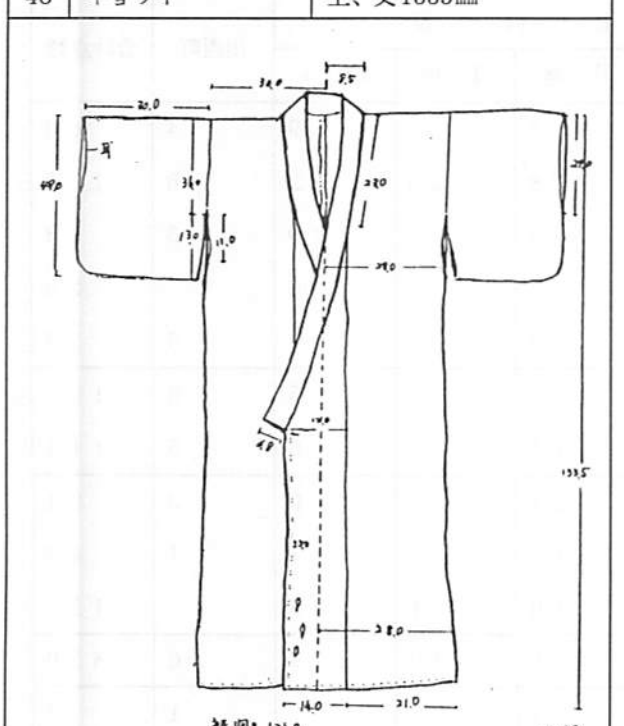
調査年月日	平成7年8月19日	調査者氏名	我 妻 壽 美

47	ギョウイ	上、木綿製、全長1130㎜
備考	墨書記銘：行屋御衣（左衿裏下部）	



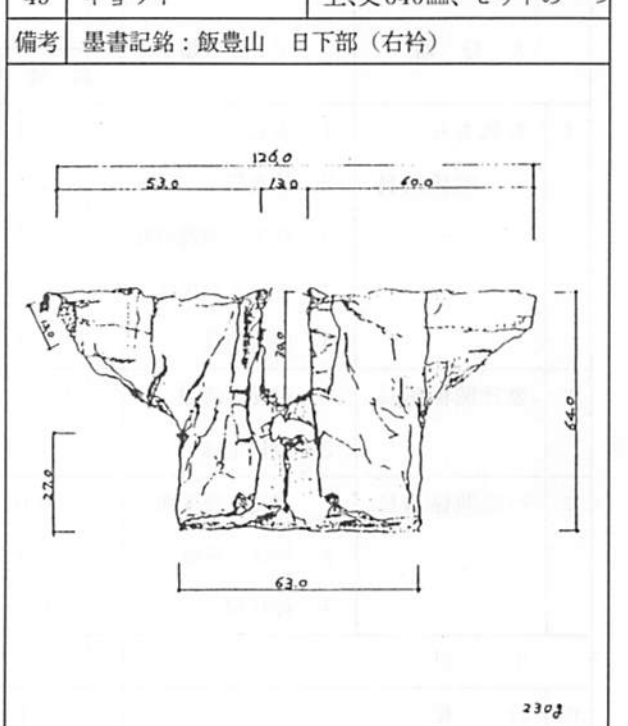
調査年月日	平成7年8月7日	調査者氏名	我 妻 壽 美

48	ギョウイ	上、丈1335㎜



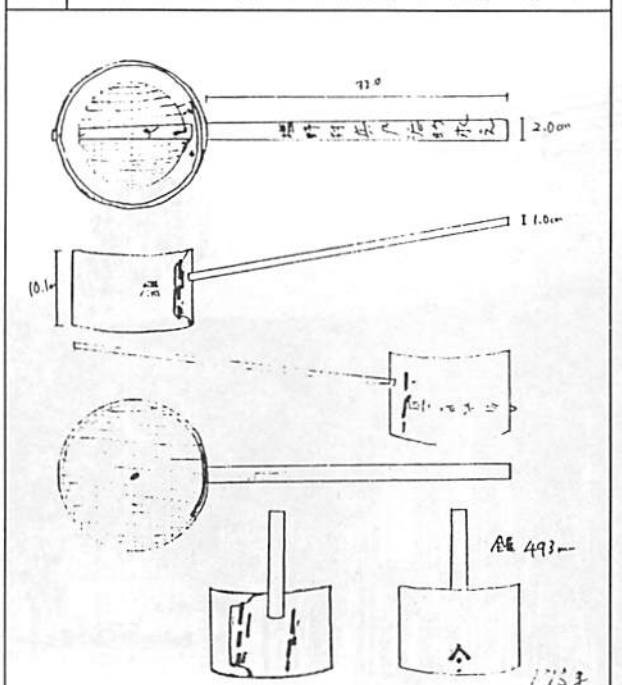
調査年月日	平成8年1月28日	調査者氏名	佐 藤 梅 子

49	ギョウイ	上、丈640㎜、セットの一つ
備考	墨書記銘：飯豊山　日下部（右衿）	



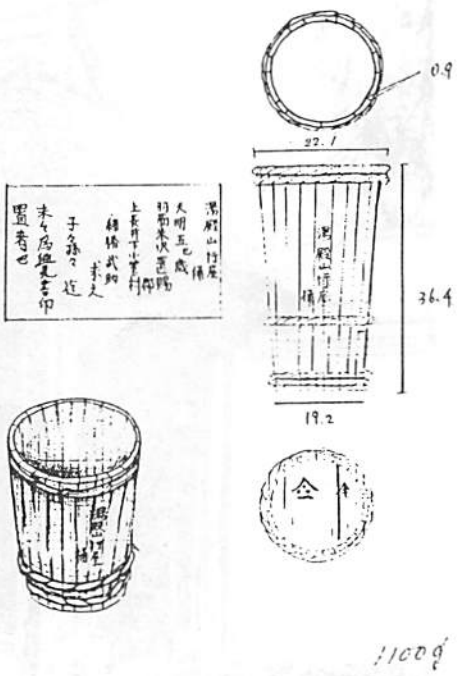
調査年月日	平成7年8月23日	調査者氏名	伊 藤 良 雄

7	ヒシャク	曲物製、全長493㎜
備考	墨書記銘：塩野村　宍戸治助求之　□年六月二日	



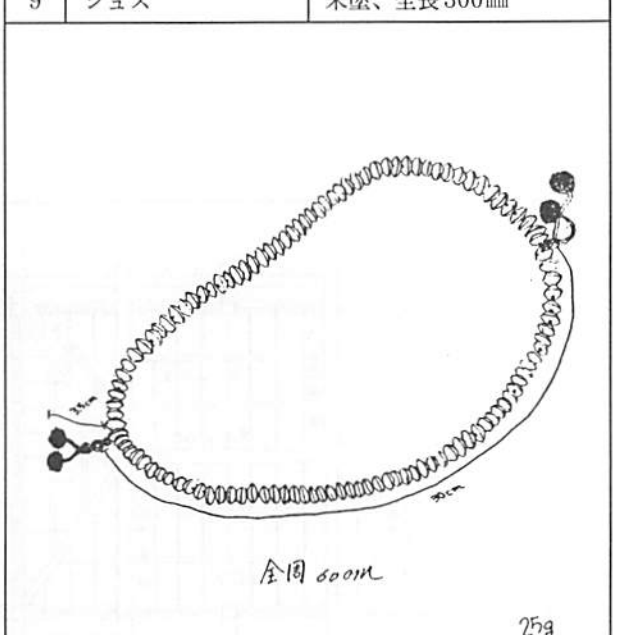
調査年月日	平成8年8月1日	調査者氏名	佐藤淳子

8	オケ	木製、高さ364㎜
備考	墨書記銘有り	



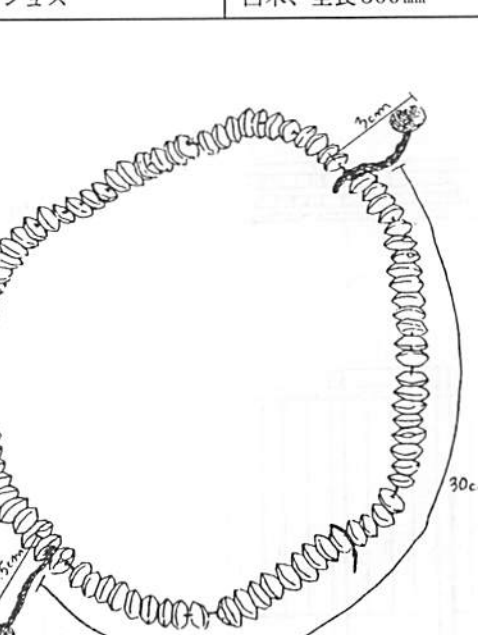
調査年月日	平成8年8月8日	調査者氏名	我妻壽美、加筆(嘉藤紀子)

9	ジュズ	朱塗、全長300㎜

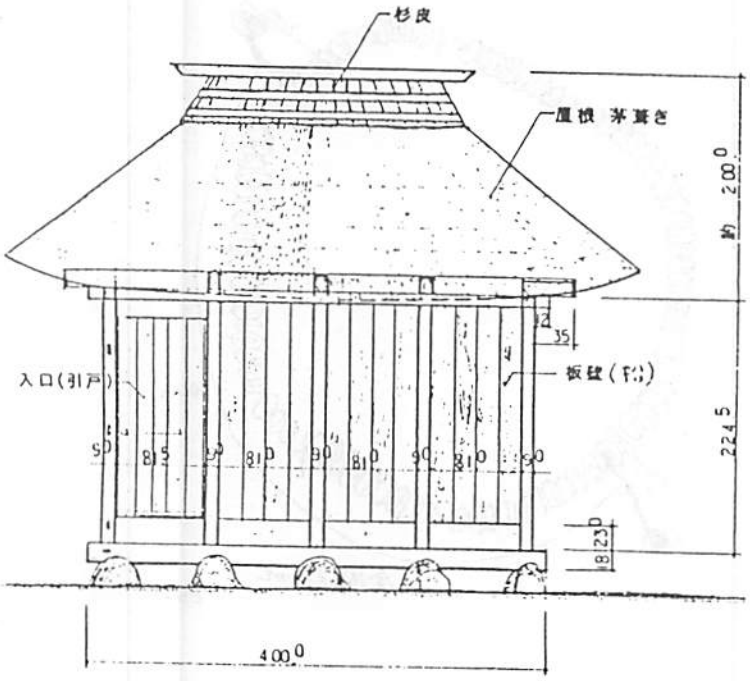


調査年月日	平成7年9月18日	調査者氏名	長谷川宏美

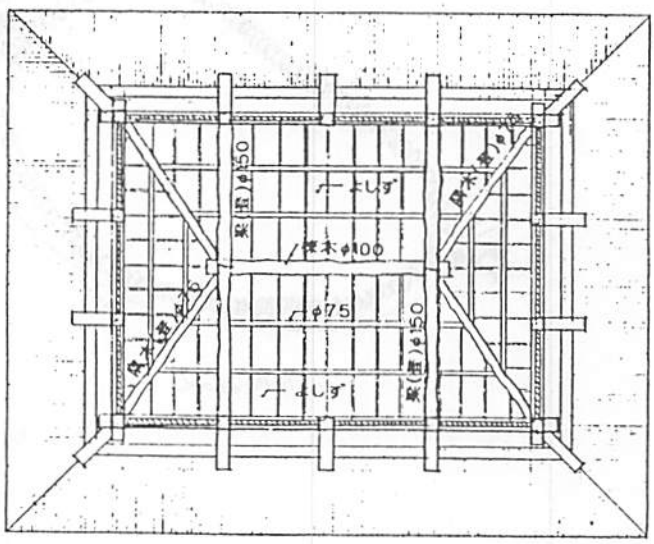
10	ジュズ	白木、全長300㎜



調査年月日	平成7年9月18日	調査者氏名	斎藤美樹



立 面 図（正面） S＝1／50



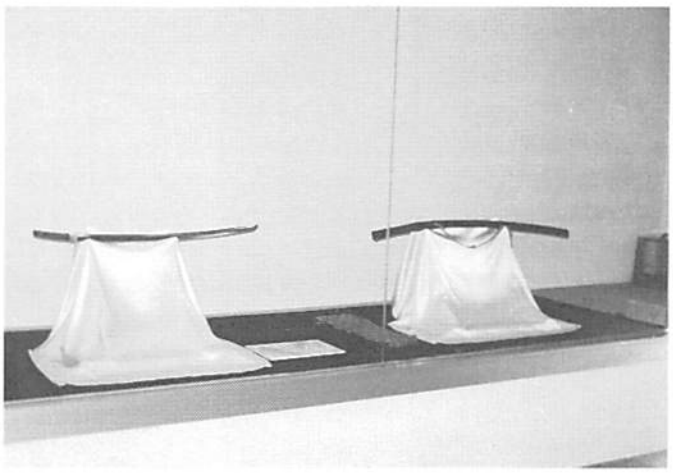
天 井 伏 図

4．収　集

(1) 平成９年度受入資料

分　類	資　料　名	件　数	点　数	受入種類	備　考
文　献	南原控図	1	1	寄　贈	
	文献資料	５６３	５６８	寄　贈	
	新屋文書 42通	４２	４２	寄　贈	
	伊藤忠太遺品	１５２	４８６	寄　贈	
	上杉家御用絵師目賀多家関係資料	７４	９０	寄　贈	
絵　画	上杉家御用絵師目賀多家関係資料	２９	６４	寄　贈	
民　具	民俗資料	２８	２２７	寄　贈	
文　献	上杉景勝書状　風巻清左衛門宛１通	1	1	購　入	
美術工芸	重要文化財「太刀銘一」号姫鶴一文字	1	1	購　入	
	謙信公御手沢水晶数珠一式	1	3	購　入	
絵　画	絵画「ダイアリイ 1997」 10号	1	1	購　入	

寄贈資料	８８９件	１，４７８点
購入資料	４件	６点
計	８９３件	１，４８４点



重要文化財「太刀銘一」号姫鶴一文字

(2) 収蔵資料数（平成９年度）

平成７年度より資料分類・整理の方法が改定され、収蔵資料の再確認が行われた。

平成10年３月31日までに確認済みの件・点数、及び収蔵資料合計を下記に掲載する。

平成10年３月31日現在

					平成９年度収蔵資料数		合　計	
	大　分　類				件　数	点　数	件　数	点　数
人文系の博物館資料	総　集				－	－	36	36
	有形の資料	伝世資料	文献	内容を重視するもの（文献）	833	1,188	5,591	6,848
				技術や筆者を重視するもの（書跡）	－	－	179	215
			工芸品	用途を重視するもの（民具その他）	29	228	685	1,353
				技術を重視するもの（美術工芸品）	1	3	51	103
			絵　画（技術を重視するものを主とする）		30	65	457	522
			彫　刻（技術を重視するものを主とする）		－	－	14	14
		埋蔵発掘資料			－	－	－	－
		遺　跡（記念物、建造物を含む）			－	－	－	－
	無形の資料				－	－	－	－
計					893	1,484	7,013	9,091
自然系の博物館資料					－	－	1,488	13,400
合　計					893	1,484	8,501	22,491

5．博物館実習

本館では、各大学の学芸員資格取得者のため、博物館実習生を受け入れている。

本年度の博物館実習のノートより、実習状況を紹介したい。

期　間　9月9日～9月11日

実　習　生	大　学　名
橋　本　光　恵	専修大学
長　澤　昌　幸	大正大学
須　貝　沙　織	郡山女子短期大学
石　黒　智　美	米沢女子短期大学

博物館実習計画

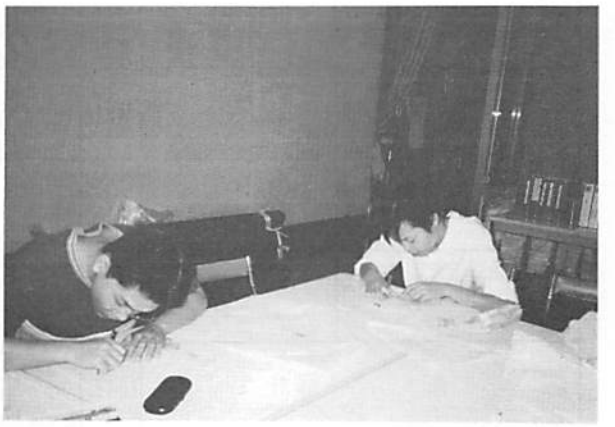
9/ 9	博物館の概説・業務説明　上杉家文書目録整理 昆虫展ポスター　行屋資料整理 キャプション作成
9/10	館内見学　昆虫展説明　昆虫標本用箱作成 標本ケース整理　昆虫展撤去作業 古文書解読作業
9/11	日本刀展キャプション作成　民芸品資料整理 寄贈資料仮台帳作成

期　間　9月12日～9月17日

実　習　生	大　学　名
大　友　寿美代	米沢女子短期大学
後　藤　マ　キ	米沢女子短期大学
太　田　　泰	いわき明星大学
大　木　里　美	米沢女子短期大学

博物館実習計画

9/12	博物館の概説・業務説明　梱包　資料整理
9/16	昆虫標本整理・箱作成 昆虫展片付け作業　古文書解読作業
9/17	行屋資料整理　屏風・掛軸の取扱い



期　間　9月18日～9月20日

実　習　生	大　学　名
星　　智　美	米沢女子短期大学
四ツ谷　理　沙	米沢女子短期大学
蓼　沼　佳　恵	米沢女子短期大学
佐　藤　美　帆	盛岡大学

博物館実習計画

9/18	行屋資料調査票作成・写真撮影
9/19	昆虫標本整理
9/20	行屋資料写真整理　行屋資料写真整理 甲冑展示

平成９年度　入館利用状況

１．利用状況

平成９年度　米沢市立上杉博物館各種展覧会入館者・入館料集計表

（平成10年３月31日現在）

	展覧会名	会期	日数	一般	学生	小中生	団体一般	団体学生	団体小中生	その他	合計
1	文書のすがた	4月19日～6月 8日	41日	人 5,444 円 2,722,000	473 141,900	415 41,500	58 23,200	68 16,320	30 2,400	303 0	人 6,791 円 2,947,320
2	第８回昆虫展	7月19日～9月 7日	43日	人 2,754 円 550,800	210 21,000	886 44,300	301 48,160	0 0	83 3,320	84 0	人 4,318 円 637,380
3	第27回日本刀展	10月 4日～11月16日	37日	人 5,744 円 2,872,000	174 52,200	191 19,100	655 262,000	94 22,560	261 20,880	69 0	人 7,188 円 3,248,740
4	館蔵品展	1月25日～3月 1日	36日	人 720 円 72,000	75 4,500	15 600	0 0	0 0	0 0	0 0	人 810 円 77,100
合計			164日	人 12,110 円 4,998,300	903 221,420	1,705 133,830	889 293,040	20 4,800	760 98,770	0 0	人 16,387 円 5,750,160

月別入館者数

月別	一般	学生	小中生	団体一般	団体学生	団体小中生	合計人数
4月	1,958人	55人	65人	0人	37人	0人	2,115人
5月	3,073	407	330	58	31	30	3,929
6月	413	11	20	0	0	0	444
7月	586	40	191	69	0	14	900
8月	1,966	138	677	232	0	69	3,082
9月	202	32	18	0	0	0	252
10月	4,129	112	135	554	94	261	5,285
11月	1,615	62	56	101	0	0	1,834
12月	0	0	0	0	0	0	0
1月	116	14	2	0	0	0	132
2月	579	58	9	0	0	0	646
3月	25	3	4	0	0	0	32
合計	14,662	932	1,507	1,014	162	374	18,651

米沢市立上杉博物館年度別入館者数・開館日数・１日平均入館者数

年次	入館者数	開館日数	１日平均
62年	35,966	262	137.3
63年	20,128	263	76.5
平成1年	22,317	252	88.6
2年	24,747	173	143.0
3年	23,857	243	98.2
4年	34,272	256	133.9
5年	37,355	241	155.0
6年	31,082	241	129.0
7年	17,088	94	181.8
8年	16,747	164	100.5
9年	18,651	151	123.5

2．利用案内

○ 開館時間

午前9時～午後5時（但し、入館は午後4時30分まで）

毎週火曜日 ： 館内整理日　午前9時～午後4時（但し、入館は午後3時30分まで）

○ 入館料

区　分		金　額	摘　要
一　般		100円	20歳以上の者
学　生		60円	一般及び児童・生徒を除く者
児童・生徒		40円	小学校及び中学校の児童または生徒
団体	一　般	80円	20人以上の場合に限る。
	学　生	45円	
	児童・生徒	30円	

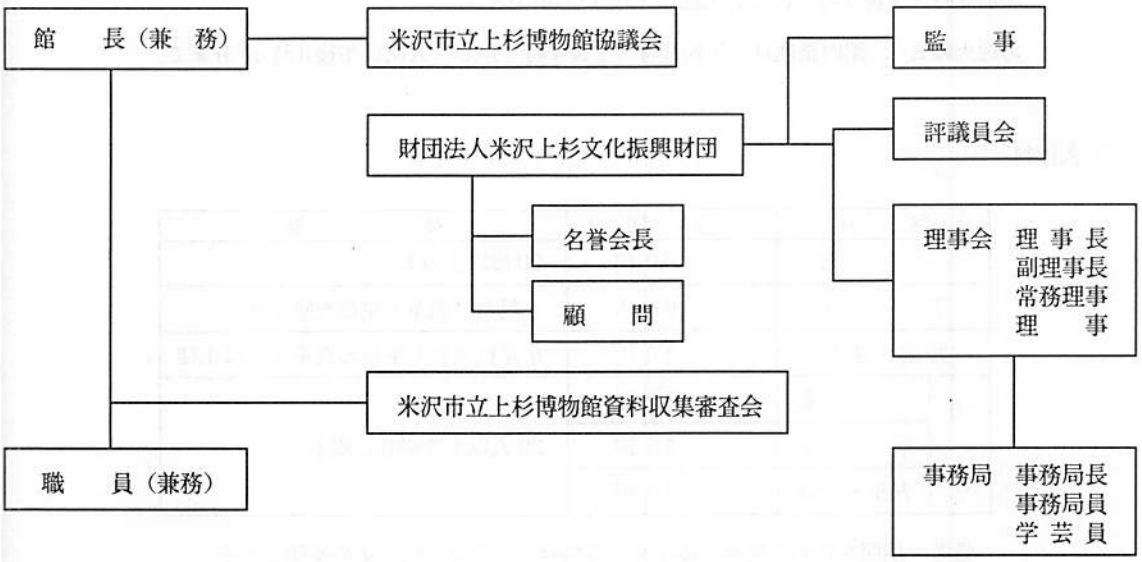
備考：期間を定めて特別の展示をする場合は、市長が別に定める額とする。

○ 休館日

毎週月曜日・年末年始（12月29日～1月3日）・祝祭日の翌日・館内整理期間

組織・名簿

組　織



1．米沢市立上杉博物館協議会委員（平成8年7月1日 ～ 平成10年6月30日）　（敬称略）

高橋　昭	米沢市小学校校長会会長	大峡　猛	学識経験者
田中　武	米沢市中学校校長会会長	菊池伸之	学識経験者
長谷部國於	米沢市高等学校校長会会長	鈴木　仁	学識経験者
太宰保子	米沢市社会教育委員	黒田信介	学識経験者
栗林金郎	(財)米沢上杉文化振興財団副理事長	佐藤美保子	学識経験者
石栗正人	米沢市文化財保護委員会委員長	鳥海隼夫	学識経験者
五十嵐謙一	学識経験者		
上杉虎雄	学識経験者		

（根拠法令等）

1．博物館法第20条～第22条（博物館協議会）

2．教育委員会が任命

3．米沢市博物館の設置及び管理に関する条例第16条により定数15名、任期は2年

（参考）委員は、学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者。

（職　務）　―博物館法第20条第2項―

博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる。

平成9年度協議会開催

開催日　平成10年2月26日（木）

場　所　教育委員室

内　容　報告　平成9年度博物館事業並びに文化財に係る事業の実施状況について

「米沢市博物館基本計画」について

協議　平成10年度博物館事業計画及び予算について

2．財団法人 米沢上杉文化振興財団

本館の管理を委託していた社団法人上杉博物館が平成2年3月に解散し、かわって財団法人米沢上杉文化振興財団が平成2年3月22日設立され、米沢市立上杉博物館の管理運営を財団に委託することとなった。

この財団は、平成元年、上杉家16代当主隆憲氏より、重要文化財「上杉家文書」・重要文化財（現在は国宝）「紙本金地著色洛中洛外図」・県指定文化財「紙本著色厩図」・重要美術品「太刀銘長船長光附打刀拵」の4件が米沢市に寄贈されたことを機として設立されたものであり、地域文化の振興を図るため、歴史・文化に関する調査研究及び美術品の公開展示などの地域社会のより豊かな文化生活に寄与することを目的としている。

役員（平成9年3月現在）　（敬称略）

名誉会長　上杉邦憲
顧　　問　高橋幸翁　鈴木幹司
理事長　青木厚一
副理事長　栗林金郎　石塚忠夫
常務理事　相田實
理　　事　上杉裕憲　上杉敏子　上杉隆治　上杉虎雄　筧統子
山中絢子　小口亘　大乗寺健　九里茂三　小嶋彌左衛門
遠藤英明　椿初枝　黒金義一　庄司淳　相田吉助
松田俊春　長岡正　北目二郎　石栗正人　横山一郎
荒井政二郎　加藤裕子
評議員　小泉溥瑛　新田秀次　山岸才一　清水澄　井形朝良
小野榮　赤木伊勢吉　水無瀬正一　小林勇　上泉治
勝見吾助　塩川勝彦　佐藤美保子　高橋素子　高森務
松野良寅　荒井信雄　菊池伸之　須貝力　桜井三男
高橋義和　遠藤宏三　小島卓二　保坂忠士　鈴木睦夫
長尾和彦　遠藤綺一郎　佐藤道子
監　　事　平田栞　村岡孝助　安部紀子

事務局

事務局長　嶋貫雄次
事務局員　角屋由美子（学芸員）　遠藤美穂（学芸員）　生熊郁子

3．米沢市立上杉博物館（平成9年4月1日現在）

館長（兼務）	舟山豊弘	米沢市教育委員会文化課	課長
職員（兼務）	小林伸一	〃	課長補佐
〃　〃	山本卯	〃	文化財係長
〃　〃	平間洋子	〃	文化財係主査
嘱託職員	佐藤裕子	〃	

平成９年度
米沢市立上杉博物館年報　Ｖｏｌ．１０

編集　米沢市立上杉博物館
(財)米沢上杉文化振興財団
〒992-0052 山形県米沢市丸の内一丁目４－13
☎ 0238－23－7302
発行　米沢市教育委員会
〒992-0012 山形県米沢市金池三丁目１－55
☎ 0238－22－5111
平成11年3月31日　発行
印刷　有限会社　シティプリント